人と社会を楽しく元気に
宝島社
2018年1月19日

第16回
『このミステリーがすごい！』大賞受賞！

オーパーツ鑑定士が謎解く密室殺人

『このミス』大賞史上最年少25歳が大賞受賞

株式会社宝島社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：蓮見清一）は第16回『このミステリーがすごい！』大賞・大賞受賞作品『オーパーツ　死を招く至宝』を2018年1月18日（木）に発売しました。

『このミステリーがすごい！』大賞は、ミステリー＆エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に2002年に創設した新人賞です。これまで、直木賞受賞者の東山彰良氏や、累計1000万部突破の「チーム・バチスタの栄光」シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出・育成してきました。

今回の大賞作は、古代文明の出土品ながら、当時の技術や知識では明らかに生成不可能な工芸品“オーパーツ”をテーマとした大賞史上初の本格ミステリーです。オーパーツ鑑定士が大仕掛けの物理トリックを明らかにし、密室殺人事件を解決していく展開が見どころとなっています。

著者である蒼井碧（あおい・ぺき）氏はドイツ生まれの25歳で『このミステリーがすごい』大賞史上、最年少の大賞受賞者となりました。弱冠25歳ながら、大胆かつ緻密なトリックの発想が選考委員から絶賛され、今後のさらなる成長も大きく期待されています。

ミステリー好きの方だけでなく、世界の歴史や文化が好きな方など、学生から大人まで、幅広い世代の方々に楽しんでいただける作品です。

著者のインタビュー取材も可能ですので、ぜひご検討をいただけますと幸いです。

『このミステリーがすごい！』大賞では、これからも新しい作家・作品を発掘・育成し、業界の活性化に寄与したいと考えております。

大賞史上最年少！

執筆のきっかけは「オーパーツ」を扱った本格ミステリーってあまり聞かないなと思い至ったことが始まりでした。ミステリアスで魅力的なテーマだと思っていたので、自分が先駆者になろうと決意し、執筆に取りかかりました。水晶髑髏に限らず“オーパーツ”がもつ、科学とオカルトという対立するはずのふたつの分野がまるで硬貨の裏表のように同居しているという矛盾に魅力を感じ、ひいては太古の謎に対する探究心をくすぐられます。

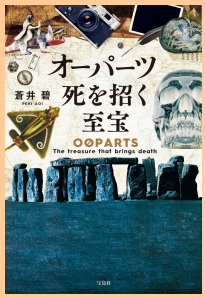
蒼井 碧（あおい・ぺき）

1992年１月、ドイツ・デュッセルドルフ生まれ。東京都小平市で育ち、在住。
上智大学法学部法律学科卒業　（民法専攻）。昔から世界各地の文化や歴史に興味があり、世界史や日本史を勉学する。独学で世界遺産について学び、2017年12月に世界遺産検定１級を取得。現在はリース会社に勤務。

『このミステリーがすごい！』大賞とは？

ミステリー＆エンターテインメントブックガイド『このミステリーがすごい！』を発行する宝島社が、新たな時代のミステリー＆エンターテインメント作家・作品の発掘・育成を目的に、2002 年に創設した新人賞。大賞賞金は文学賞最高額である1200 万円。受賞作はすべて書籍化している。第153 回直木賞を受賞した東山彰良氏や、第15回大藪春彦賞を受賞した柚月裕子、累計1000 万部突破の「チーム・バチスタの栄光」シリーズの海堂尊氏などの作家を輩出している。受賞作品からは多くのベストセラーが誕生し、『警視庁捜査二課・郷間彩香特命指揮官』（梶永正史・2016年テレビドラマ化）、『一千兆円の身代金』（八木圭一・2015年テレビドラマ化）、『果てしなき渇き』（深町秋生・2014年映画化、映画タイトル『渇き。』）、『さよならドビュッシー』(中山七里・2013年映画化、2016年テレビドラマ化）など映像化作品も送り出している。

また、受賞には及ばなかったものの将来性を感じる作品を「隠し玉」として書籍化し、ベストセラーを生み出している。



『オーパーツ 死を招く至宝』
2018年１月18日発売
定価：本体1380円+税

あらすじ

貧乏大学生・鳳水月の前に現れた、顔も骨格も分身かのように瓜二つな男・古城深夜。同級生の彼は、“オーパーツ”鑑定士だと高らかに自称した。水晶髑髏に囲まれた考古学者の遺体、夫婦の死体と密室から消えた黄金のシャトル…謎だらけの遺産が引き寄せた数多の怪事件と難攻不落のトリックに変人鑑定士・古城と巻き込まれた鳳の“分身コンビ”の運命は!?

≪お問い合わせ先≫　株式会社宝島社　広報課　担当：今川宏恵/板倉優/緒方未来/森田裕子/山﨑あゆみ
〒102-8388東京都千代田区一番町25番地　TEL 03-3239-0967　FAX 03-3288-1305

選考委員がトリックを大絶賛！　抜群の発想力をもつ
『このミス』大賞作家・蒼井碧（あおい・へき）とは

聞き手・ライター　大西展子

【執筆のきっかけ、１週間で新トリックも】

大学４年生の時に内定が出た後、わりと暇になったんです。ちょうどその時期に**ミステリー小説を乱読していて、読んでいるうちに徐々に自分でも書いてみたい、オリジナルトリックを考えてみたいと思うようになってきた**んです。最初は、本格ミステリーの中のクローズド・サークルとか、館物が凄く好きだったので、そういった系統の物語を３作品書きました。４作品目は**とにかく自分の書きたいものを書こうと思って書いたのが今作の『オーパーツ　死を招く至宝』です。もともと古代文明や遺物に興味があって、オーパーツという題材自体も前々からいつかは使おうと、とっておいたネタ**なんです。

好きなテーマで書いた作品が大賞受賞できた喜びも束の間、担当の方から「最終章に関して他のネタはないか」と問い合わせがきたんです。私としては受賞の喜びも吹っ飛ぶほど、**焦りやプレッシャーもありましたが、持ちネタをドンドン出した結果、新しいトリックも提案でき、約１週間で最終章を書き直しました。**

【今作の主人公について】

「シャーロック・ホームズ」シリーズの探偵とワトソンのコンビみたいな感じにしたいなと。ただ、役割を完全に分離させるのではなく、どちらも探偵役で、ワトソン役もできるような、そんなコンビにしたかった。だったら見た目は同じだけどキャラクターは全然違うというのは面白いのではないかと。

でも、双子では面白みに欠けるので、いっそ別人にしてしまおうという発想で生まれたキャラクターが鳳水月（おおとりすいげつ）と古城深夜（こじょうしんや）の２人です。よく世界には自分にそっくりな人が３人いると言いますから、この人物設定は成立すると思いました。

【一次選考通過が最も嬉しい知らせだった！家族の反応は】

一番驚いたのは大賞をいただいた時ではなく、一次選考を通過したという連絡が来た時です。３年ほど前から別の作品で他の新人賞に応募していたのですが、全く良い結果がでなかったので、あの時は本当に嬉しかったです。大賞の連絡を受けた時は、びっくりというか大変なことになっちゃったなと。良くて「隠し玉」的な枠だろうと思っていました。

家族は、それまで小説を書いているのは知っていましたが、落ちるたびに「そんなに甘くないぞ」と冷たい目で見られてたんです（笑）だから、今回は一次選考に通ったことも言わず、大賞を受賞したと報告した時は一様に驚いていました。一番喜んでいたのは父で「よくやった」と言ってくれました。

【二足の草鞋、次回作を書くなら】

今は、リース会社に勤めていて、自動車のリースをやっている部署で、インターネットで個人向けのリース車を販売しています。平日は帰宅後に執筆していますが、疲れてやる気のない時もありますので土日の休みに書くことが多いですね。

今回が連作短編だったので、次は長編、大長編ものにチャレンジしたいです。テーマとしてはオーパーツネタは他にもいろいろあるので、そこから持ってくるか、またちょっと趣向を変えて新しいテーマでいくか思案中です。

【世界遺産検定１級も獲得！ 趣味は一人旅】

実は**世界遺産検定で先月１級を取った**ばかりなんです。この際、１級を持っていないと受験できない最高位のマイスターにも挑戦しようかなと検討しています。

誰にも気兼ねなく自由に見て回れる**一人旅が好きで、日本全国を見て回りたいと思っています。今年はまだ行けていない四国と青森・秋田に行く予定なので、ついに47都道府県を制覇**できそうです。

印象に残っているのは最初の赴任地が札幌だったのもあり、北海道です。東京への転勤が決まるまで２年間は旭川、登別、網走、函館などいろんな場所に行きました。去年のゴールデンウィークには日本の世界遺産を巡る旅に出ようと思い立って、岐阜の白川郷から和歌山県の熊野古道、姫路城、そして福岡県の八幡製鉄所を巡って帰るという旅を計画して行って来ました。ラッキーなことに、ちょうど福岡に滞在していた時に「神宿る島」宗像・沖ノ島が世界遺産に認定されたので宗像大社も行けました。

海外でこれから行こうと思っているのは、生まれ故郷であるドイツのデュッセルドルフで、ゆくゆくはヨーロッパで世界遺産が一番多いイタリアに行けたらいいなと思っています。

≪お問い合わせ先≫　株式会社宝島社　広報課　担当：今川宏恵/板倉優/緒方未来/森田裕子/山﨑あゆみ
〒102-8388東京都千代田区一番町25番地　TEL 03-3239-0967 FAX 03-3288-1305